

ものづくりの現場を多面的にサポート

生産部門は、資材の発注や工事の進行管理、施工図の作成など、各プロジェクトにおける幅広い業務を担います。職員全員にiPadを支給するなど、ICTの導入も進んでおり、ドローンを使った測量や点群データの活用、BIMによるデータ管理など、最先端の技術を駆使して建物をカタチにしていきます。

具体的な仕事内容とキャリアパス

生産系の業務は、「建設現場での業務（施工管理）」と「建設現場以外での業務（生産技術、生産設計、見積・積算、調達、営業）」に分かれます。

建設現場での主な業務（施工管理）



工程・安全管理

工事のマスター計画（総合仮設計画・工程計画）立案や工事途中の建物の安定性検証など技術的な支援を行います。



品質管理

品質不具合の防止のために、技術的検証や施工状況検査などを行います。設計者に対して助言を行うこともあります。

建設現場以外での主な業務（生産技術、生産設計、見積・積算、調達、営業）

生産技術

効率のよいプロジェクト進行のため、施工計画の立案、現場の技術支援を行います。

生産設計

建物を構成する部材の材質やディテール、強度、取付方法など実際にものづくりをするための施工図を検討・取りまとめます。

見積・積算

工事を受注するために、設計図から使用する資材の数量を積算し、積算した各項目に見積金額を値入れします。

調達

鉄骨、杭、建具、硝子、内装材など様々な建築材料を国内外から集中的に調達（購買）します。

営業

建物の受注を行うために、工事情報の収集や受注案件の企画・戦略立案を行います。各部門を取りまとめる役割です。

若年職員時代（入社1～6年目）は、施工管理を中心とした業務を担当し、知識・技術、経験を積み重ねて、多方面の業務へと移行（海外勤務を含む）していきます。

求める人物像

最先端技術や新工法を用いることも多いため、新しい技術・技法を積極的に習得していきたいというチャレンジ精神旺盛な人に向いている。学ぶことや覚えることも多いので、勉強熱心な姿勢も大事。



キャリアパス・研修制度

	入社1～2年目	入社3～10年目	入社11～25年目	入社26年目以降
	大林組の業務を理解	各部門で専門技術・知識を習得し、リーダーに成長	豊富な経験と高度な技術・知識を有したチームリーダー	高いマネジメント力により組織を運営、会社の発展に貢献
キャリア	新入社員、若年職員【教育期間】	実務職層	中間管理職層	上級管理職層～
社内(部内)での位置づけ	係員	係員 → 主任	工事長→副所長→所長 副課長→課長→副部長	所長、部長 統括部長、副支店長
配属店	本社・本支店 (原則、国内での業務)	本社・本支店 (国内／海外)	本社・本支店 (国内／海外)	本社・本支店 (国内／海外)
配属先	「国内／海外生産(工場事務所)」「生産支援(工事部、生産技術、生産設計、調達、見積部門等)」「営業部門等」	「国内／海外生産(工場事務所)」「生産支援(工事部、生産技術、生産設計、調達、見積部門等)」「営業部門等」	「国内／海外生産(工場事務所)」「国内／海外生産支援(工事部、生産技術、生産設計、調達、見積部門等)」「営業部門等」	「国内／海外生産(工場事務所)」「国内／海外生産支援(工事部、生産技術、生産設計、調達、見積部門等)」「営業部門等」
研修	業務別研修 新入社員 建築導入 → 富士 教育訓練 → 建築生産 2年目研修 → 生産設計研修 → BIM研修 →	建築生産 3年目研修 → 建築生産 4年目研修 → 建築生産 実務 →		
	共通研修 新入社員研修 →	実務階層Ⅰ → 実務階層Ⅱ →	中間管理職層Ⅰ → Ⅱ Ⅲ	上級管理職層 →

MAKE BEYOND

the Interview

OBAYASHI VIEW

個々の技能や情熱が結集し、プロジェクトの成功と感動を呼ぶ

プレッシャーが大きい分 喜びが倍増するのが建築の仕事

入社以来4つの建築現場を経験し、現在は東京都港区白金一丁目の再開発プロジェクトを担当しています。このプロジェクトでは、東棟（地上45階）と西棟（地上19階）、中央棟（地上4階）からなる「SHIROKANE THE SKY」を建設しており、私は中央棟の生産管理に携わっています。

中央棟の生産管理は先輩社員と新入社員と私の3名で担当し、点検・検査が主な業務です。中央棟の全ての設計図がiPadの中に入っているため、その図面を見ながら、「鉄筋の太さは合っているか」「寸法は正しい

か」などを確認していきます。設計図に沿って進んでいない箇所があれば、現場に対して再施工の指示を出さなければなりません。ベテランの職人さんに指示を出すことも多いですが、その中で心がけているのは、相手の話をしっかりと聞き、意見を汲み取りつつ、自分の指示を伝えること。それを繰り返すことによって信頼関係が生まれ、作業もスムーズに進んでいくものと思い、日々業務に励んでいます。

入社して初めての現場は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で競泳などの会場となった「東京アクアティクスセンター」（東京都江東区）でした。そこでお世話になった親方と、現在の白金の現場でも一緒になり、「またお願いします」と言っていたいた時は

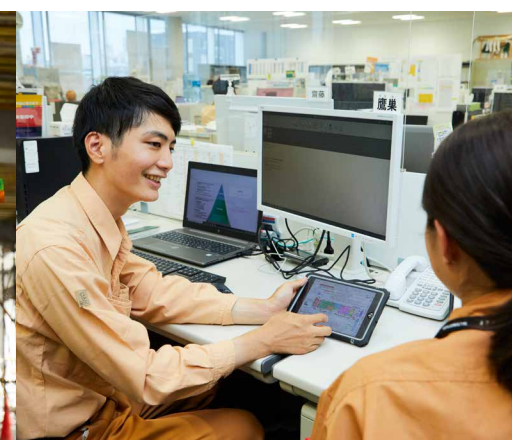
うれしかったです。人と人とのつながりの中で仕事が成り立っていることを実感しました。点検・検査は地道な作業の連続ですが、その一つひとつが、大きなプロジェクトを支えています。ミスが許されず、責任の大きさにプレッシャーを感じる場面が多いだけに、自分が携わった建造物が出来上がったときの喜びはひとしおです。

力を合わせて進める建築現場は 成長できる機会が詰まっている

現在の白金の現場では、新入社員と担当することが多いため、手順を順序立てて丁寧に教えるようにしています。建築現場というと、「背中を見て覚えろ」といった職人気質が強く、

「3K」のイメージを持つひともしいるかもしれませんが、そのような雰囲気はありません。若手でも意見が言いやすく、アットホームで働きやすい環境が整っているのが、大林組の特徴のひとつです。

今後の目標は、海外での大きな建設プロジェクトに挑戦すること。大林組には「海外トレーニー」という人材育成プログラム制度があるため、それを活用して海外に出ていきたいです。現在実感しているのは、建築現場には成長できる土壌があるということ。発注先から作業員まで、さまざまな人と関わり、力を合わせて仕事を進めていくため、技術的にも、人間的にも成長できます。そんな現場で働きたい人は、大林組にぜひチャレンジしてみてください。



コーヒーの一杯が癒やしのひととき

好きな本を持ってお気に入りの喫茶店に行き、コーヒーを飲みながら過ごす時間が至福のひととき。建築現場では、緊張の場面が多いため、体と心をリラックスさせる時間は欠かせません。自宅では、豆からコーヒーをいれ、喫茶店気分を味わっています。



生産

鷹巢 飛鳥 東京本店 白金一丁目再開発JV工事事務所 職員 / 2017年入社

父が設計の仕事をしていたこともあり建築に興味を持ち、大学の建築学科に進学。コンクリートの材料に関する研究に携わる。その中で、自身の技術を生かしながら、大きなプロジェクトに関わりたいと思い、ゼネコンへの就職を模索。業務の内容やこれまでの実績を調べる中で、大林組が手がけた東京スカイツリーに目がとまり、大林組であれば歴史に残るような仕事ができると期待を抱く。さらに、人を大切にする温かみのある社風に魅力を感じ、入社を決意。入社後も、社員を大事にする家庭的なイメージは変わらない。



MAKE BEYOND

the Interview

OBAYASHI VIEW

入社早々の現場での大失敗が 私の生産管理業務の教訓に

入社後は東京都中央区日本橋の高層ビルで約3年、千葉県船橋市の物流倉庫で約1年半働き、現在は横浜市中区に建設中の大林組の次世代型研修施設「OYプロジェクト」の現場で生産管理を担当しています。他の社員と比べて、携わった現場の数は少ないですが、その分各現場での年数が長く、さまざまな経験や勉強を積み重ねながら、今日に至っています。

入社して間もなく、日本橋の現場でしてしまった大きな失敗は、私にとって大切な教訓になっています。1m四方の鉄骨の支柱を地下

深くのコンクリートに沈めることになっていたのですが、私が材料の分量を間違えてしまったためにコンクリートが固まってしまい、鉄骨が入らなくなってしまったのです。金額にして数百万円規模の大きなミス。まだ右も左もわからない私は、怒鳴られることを覚悟して現場責任者である所長に謝りに行きました。すると所長は「猛省しなければいけない。それと同時にこれは正工事は減多にできない貴重な経験でもあるから、工程をしっかり学ぶこと」と仰り、他の先輩方や職人の皆さんも知恵を出し合って是正をしながら、私に指導してくださいました。それ以来、一つひとつの材料や作業の意味をよく考えるようにしています。

現在携わっている「OYプロジェクト」は、柱や

梁、床、壁など地上の主な構造部に木材を採用した、日本初の高層純木造耐火建築物として建設を進めています。現場も周辺道路も狭いので、どのような資材を、どのように搬入して、どのように建てていくか、慎重に検討しなければなりません。しかし、それこそが生産管理のウデの見せどころ、地道な作業ですが、すべて計算通りに進んだ時には心の中でガッツポーズをしながら作業しています。

人とのつながり・信頼関係が 仕事に大きく関係する

これまで働いてきて感じるのは、人と人とのつながりが日々の仕事に大きく関係するというこ

地道な手作業と信頼関係の

構築が、プロジェクト成功のカギ

とです。大学院時代に伝統木造について研究し、「木造の建物を造りたい」と思っていた私が「OYプロジェクト」に携われたのは、まさにこの“つながり”のおかげ。入社以来、アピールしていた木造建築への情熱が、社員から社員へと伝わり、ついにプロジェクト担当者に届いたからです。若いうちから年代や役職を問わず、さまざまな人と接することのできる仕事であり、風通しがよい職場だと思います。

また、最初の日本橋の現場では、所長を筆頭に社員や職人さんの結束力が強く、まさに“ワンチーム”となっていたのが印象的でした。私もあの時の所長のように、職人さんのネットワークを作って、自分だけのチームをつくって現場に立てるような人になることを目標に、頑張っていきたいです。



職人さんとゴルフなどで親睦を深める

日本橋の現場で働いていた時に、職人さんにゴルフに連れて行ってもらったことをきっかけに、休日に仕事関係の人と集まって遊ぶのが好きになりました。職人さんが造った新工場を見に行ったりバーベキューをしたことや、結婚祝いをしたことも。プライベートでも交流を深めています。



生産

石坂 ゆい 東京本店 OYP横浜工事事務所 職員 / 2014年入社

小さいころから建物を見て回るのが好きで、建築に興味を持つ。大学進学後、建築は物理や数学などの理学的な知識だけでなく、芸術や文化といった分野の要素もあることに気づき、さらに魅力を感じることに。その探究心は衰えることを知らず、大学院へと進学。建築の知見を深めながら、ゼネコンや建設会社を訪問しさまざまな話を聞く中で、「自分も現場で働きたい」という思いが強くなっていった。大林組を選んだ理由は、現場の雰囲気、風通しのよさ。“人の大林”と言われるゆえんはここにあると、深く実感している。

